

改革の継続と都市農業の振興・活性化に向けた特別決議

令和元年5月まで政府により設定されていた「農協改革集中推進期間」も終了し、今後は改革の実践状況把握と准組合員の事業利用規制のあり方を検討することとしている。

我々は、組合員との対話を基本に農業所得の向上、地域の活性化に向けた自己改革を着実に進めてきたが、今後もその成果を創出し続けるとともに、准組合員の農業振興に向けた取り組みおよび協同活動に対する参加を一層加速化させることで「地域になくてはならないJA」として確固たる地位を確立することが求められている。

また、都市農業を取り巻く環境は、生産緑地指定から30年経過後の措置として創設された特定生産緑地制度に加え、都市農地貸借法も施行されるなど都市農地を保全していくための環境整備が進んでいる。

生産緑地の保全手法の選択肢が広がった中、都市農業が持つ多面的な機能の発揮を通じ、地域住民の潤いある生活に資するため、行政等関係機関と連携し、新たな制度をもれなく周知するとともに活用を促すことが喫緊の課題である。

これらの情勢を踏まえ、私たちJA組合員・役職員は、組織一丸となって下記事項に取り組むことを決議する。

記

1. 自己改革の継続と地域JAとしての地位の確立

地域の活性化および地域JAとしての地位の確立に向け自己改革を継続させるとともに、准組合員の地域農業に対する意識を高め、農業振興に向けた取り組みを一体となって展開していくこと。

2. 都市農業の振興に向けた新たな制度の周知

組合員が、将来にわたり安心して営農活動ができるよう行政等関係機関と連携し、特定生産緑地制度をはじめとする新たな制度の周知と活用促進による農地保全に全力を挙げるとともに、都市農業の多面的な機能の効果を享受する地域住民の理解を図ること。

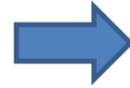
令和元年6月25日

セレサ川崎農業協同組合 第22回通常総代会

JAセレサ川崎の「自己改革」の取り組み状況について

1. JAセレサ川崎の「自己改革」の最優先課題

【JAセレサ川崎の「自己改革」最優先課題】
第7次総合3か年計画



- (1) 農業所得の向上
- (2) 農業振興
- (3) 地域貢献
- (4) 准組合員利用規制導入への対応

2. 「農業所得の向上」・「農業振興」への取り組み状況と成果

(1) 農業者の皆さまへの農業支援策の展開

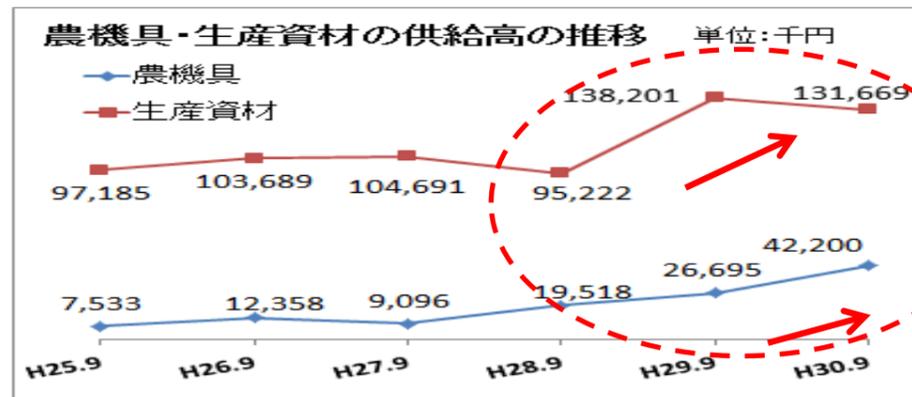
- ① 農業総合支援対策事業の支援項目を平成30年4月より農機アタッチメント、畜産事業用機械・畜舎、ハウス内システム(ICT)など、高額な設備も支援対象に追加

【参考】「農業総合支援対策事業」の利用状況(申請ベース)と効果

「農業総合支援対策事業」取扱開始時からの利用状況合計(単位:円)

	件数	購入金額	支援予定金額
農機購入	745件	301,650,514	70,721,385
ハウス設置	39件	161,612,848	15,052,979
ハウス補修	144件	89,156,227	12,967,100
ハウス内システム	16件	14,776,148	4,432,665
合計	944件	567,195,737	103,174,129

※実績は平成29年6.27~平成30年12月までの累計。また支援予定金額には支払済を含む。



農業総合支援対策事業の実施により、農機具・生産資材の供給高は大幅に増加

※「生産資材」は、肥料・農薬・農機・農業資材・温室資材などの合計金額を表示。

- ② 農業機械メンテナンス会を平成29年度に引続き夏季(41台)にも開催
③ 農業融資の活用を通じた包括的な農業経営サポートの展開

【参考】農業関連融資の推移

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年12月末
新規実行	13件	54件	105件	103件
	35,480	149,290	431,940	271,493
年度末残高	346,215	430,514	750,983	914,073

※新規実行は当該年度中の新規実行件数(上段)、および実行金額(下段)を表示。

農業経営の拡大に貢献

【参考】農業関連融資に対する利子補給の状況

(単位:円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(概算)
JAバンク	45,087	295,738	993,678	3,378,150
川崎市	474,050	507,850	386,550	486,720
合計	519,137	803,588	1,380,228	3,864,870

※各年度の利子補給額は毎年1~12月の実績を表示。

- ④ 遊休農地の減少および農業者の高齢化をサポートするため農作業受託、農機貸出事業を重点化するとともに、本体への事業移管を通じて料金を大幅に値下げ

【参考】農業支援事業実績の推移

(単位:円)

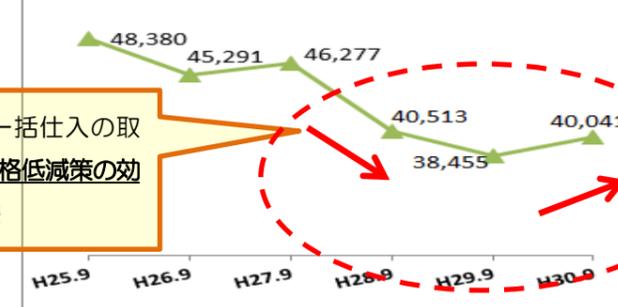
	平成29年12月末(A)		平成30年12月末(B)		対比(B-A)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
農作業受託	47件	1,240,980	61件	1,151,100	14件	▲89,880
農機貸出	4件	50,600	8件	53,500	4件	2,900
合計	51件	1,291,580	69件	1,204,600	18件	▲86,980

農作業受託料金を大幅に値下げしたことによって利用件数は確実に増加

- ⑤ 生産資材の価格低減への継続的な取り組みの展開と、生産資材特売セールなどの定期的実施を通じた農業所得向上策の継続的取り組み

【参考】生産資材価格低減の効果

肥料の供給高の推移 単位:千円



銘柄集約や大量一括仕入の取り組みにより、価格低減策の効果が供給高に反映

価格低減策の効果が浸透したことで、購入数量が増加(前年比:約+2,200袋)し、供給高が回復

- ⑥ 9月末の台風24号被害に伴い、無利息の「災害救済資金」(農業用施設の再建・営農再開に必要な運転資金)の取り扱いを開始した他、農業資材の臨時回収を行い、早期復旧を支援

(2) 大型農産物直売所「セレサモス」来店誘致策の強化

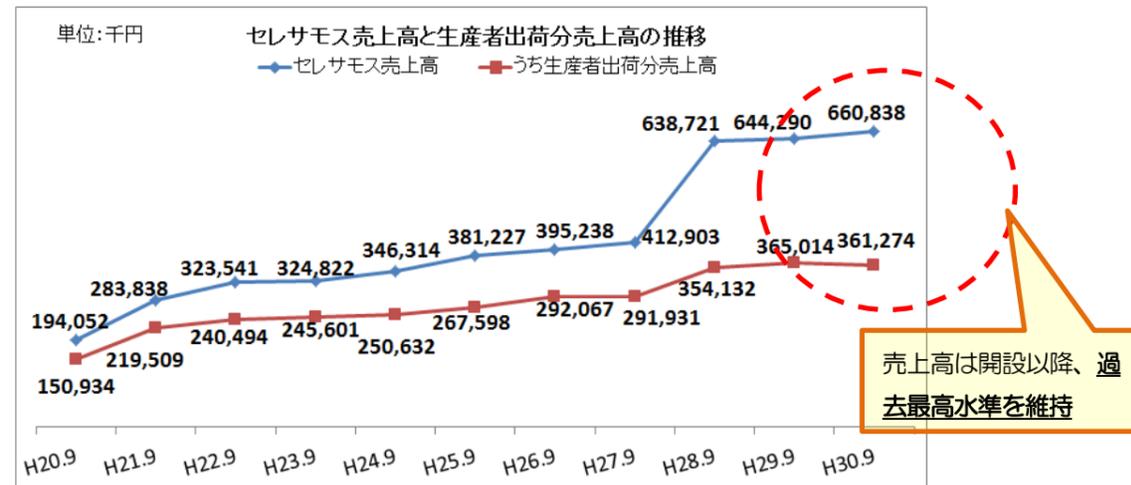
- ① 多彩な来店誘致策の積極的な展開(キャラクター「ハローキティ」とのコラボ企画実施など)
② 「セレサモス」の敷地・施設(宮前店:モスピーホール)を利用した積極的なイベントの企画と実施
③ 「セレサモス引換券」の効果的な利用拡大や、支店・地域イベントへの出張販売などの対応を強化
④ SNS(LINE)の活用により宣伝効果を拡大

	平成29年12月末(A)		平成30年12月末(B)		対比(B-A)	
	来店数(人)	売上額(千円)	来店数(人)	売上額(千円)	来店数(人)	売上額(千円)
麻生店	275,745	553,937	275,822	547,716	77	▲6,221
宮前店	239,269	386,110	250,936	413,982	11,667	27,872
両店合計	515,014	940,047	526,758	961,698	11,744	21,651

(3) 大型農産物直売所「セレスアモス」出荷者への支援策の強化

- ①セレスアモスオリジナル防曇袋の作成と販売による市内産農畜産物の付加価値向上
- ②農業総合支援対策事業を通じて出荷者に対して出荷奨励金を交付(＝生産意欲の向上へ)
- ③出荷者大会や出荷者意見交換会の実施などを通じた有利品目・推奨品目情報の提供

【参考】セレスアモス売上高と生産者出荷分売上高の推移



(4) 販路拡大策の強化

- ①市内商工業者などとの連携を通じて販路を着実に拡大
- ②川崎市立中学校給食への市内産農産物の食材提供により、安定的な販路拡大

【参考】川崎市立中学校給食への食材提供の実績

	出荷品目数	出荷量合計	買取金額合計
平成 29 年度	13 品目	7,559kg	2,172,021 円
平成 30 年 12 月末	12 品目	9,478kg	2,825,530 円

※平成 29 年度は通期の合計。平成 30 年度は 4 月から 12 月末までの 9 か月間の合計。

(5) 生産性向上および品質管理策の支援強化

- ①TAC(営農指導担当員)活動などの強化による生産履歴記帳の指導支援と、GAP導入に向けた段階的準備の対応強化
- ②明治大学や種苗業者などと連携した端境期対策の提案を通じて生産性向上策や農業所得向上策を支援(＝採りつきりアスパラガスに取り組む生産者が増加)

(6) 都市農業理解対策の推進

- ①農業体験学習や行政などと連携した地産地消イベントを通じて、地域住民に対する都市農業への理解促進を強化
- ②地区や本・支店・大型農産物直売所「セレスアモス」で総力を結集し、都市農業PRなどを目的としたイベントに積極的に取り組み、都市農業PRを継続的に強化
- ③川崎市立中学校給食への食材提供や小・中学校への積極的な食農教育支援を通じて市内産農畜産物および都市農業を強かにPR
- ④「セレスアパル」(vol.47 2018 秋発行)に川崎の農業への主な取り組みを紹介し、准組合員に当JAの自己改革をPRするとともに、農業関連イベントへの積極的な参加と直売所の利用を呼びかけ
- ⑤「セレスアパル」(vol.48 2018 冬発行)に「総合事業」特集記事を掲載し、准組合員に対して地産地消などを通じた「かわさき農業」への応援を呼びかけ

以 上